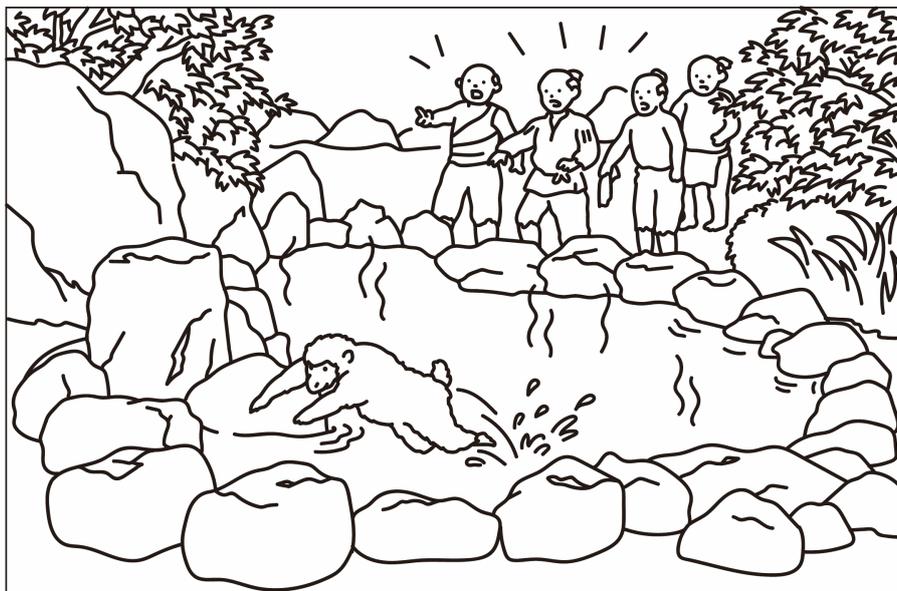


「Kita Alps Traverse Route」ならではの

体験ストーリー集

—平湯温泉エリア編—



2025年3月

中部山岳国立公園管理事務所

目次

I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方	1
II. 平湯温泉の望ましい体験	4
III. 平湯温泉ならではの体験ストーリー	5
1. 平湯温泉ならではの価値・魅力1「地域の宝「平湯温泉」」	6
平湯温泉は、戦国時代に白猿に導かれた武将が発見したという伝説を持つ。平湯温泉の特徴は豊富な湯量と高温な湯で、これは全国トップレベルの水準である。	
平湯はそば等の涼しい土地を好む穀物類ですら生育が難しいほど冷え込みの厳しい環境のため、古くから温泉の成分や蒸気、地熱等を利用した生活を営んできた。その一端は、特産品の生産、土産物の製造に見て取ることができる。	
豊富な湯量を誇る温泉は、厳しい環境の中で地域の生活を支える貴重な資源となっている。	
2. 平湯温泉ならではの価値・魅力2	
「北アルプスの山々に囲まれた豊かな自然環境」	13
平湯温泉は、標高1,250mに位置し、段丘堆積物、扇状地堆積物等の平坦な地形となっている。	
平湯の温泉街や周辺の峠からは、乗鞍岳や焼岳、笠ヶ岳、槍・穂高連峰など、北アルプスの山々を望むことができるほか、落葉広葉樹林から亜高山帯針葉樹林と変化に富んだ植生を観察することができる。	
平湯温泉一帯は中部山岳国立公園の集団施設地区となっており、温泉利用のほか、キャンプや自然散策、スキー等、地域の自然環境を活かしたアクティビティを楽しむことができる。	
3. 平湯温泉ならではの価値・魅力3	
「登山の玄関口として多くの人を呼び寄せる地」	20
東西の峠道が交わる平湯は、古くから北アルプス登山の玄関口として親しまれ、播隆上人やウォルター・ウェストン、篠原憮然など、著名人がこの地から周辺の名峰を目指した。	
かつては冬になると峠道が雪で断絶され、陸の孤島と呼ばれたが、現在は道路整備が進み、年間を通じて峠越えができるようになったことから、高山市側から中部山岳国立公園南部地域への玄関口、上高地、乗鞍岳、新穂高、高山などの観光地を結ぶ交通の要衝として多くの人が行き来する地となっている。	
4. 平湯温泉ならではの価値・魅力4「山とともに生きる奥飛騨ならではの暮らし」	27
奥飛騨では豪雪地帯の山間部ならではの、厳しい冬を過ごすための工夫を凝らした住宅、食文化が見られる。	
暮らしぶりや祭り等の文化は奥飛騨温泉郷全体で共通点も多いが、5つの温泉地ごとに少しずつ異なる発展を遂げている部分もある。	
松本市側との文化の違い、また奥飛騨温泉郷という小さなエリアの中での文化の違いは、奥飛騨温泉郷の見どころの一つでもある。	

はじめに

令和3（2021）年から中部山岳国立公園南部地域を中心に、松本市街地と高山市街地をつなぐ行政区分にとられない横断的な地域を一つの観光圏として捉え、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地へと磨き上げていく「松本高山 Big Bridge 構想」実現プロジェクトを進めています。利用と保全の好循環による持続的な観光として構想を実現するための総合循環型観光圏を「Kita Alps Traverse Route」と名付け、一体的な旅づくりとプロモーションの取組を進めているところです。

「Kita Alps Traverse Route」には、構成する地域ごとに自然・文化等の特徴的な魅力があります。こうした特徴的な魅力が、この観光圏の来訪者へ、この地域ならではの体験として提供されることで、魅力が価値として伝わり、来訪者とこの土地に特別なつながりが生まれ（満足度が向上しファンが拡大し）、この地に訪れる価値・滞在価値がさらに向上し（地域のブランド化が進み）、選ばれる観光圏が確立され、社会の充実や自然・文化等地域資源の保全につながる総合循環型観光圏の実現に至ると考えています。

本冊子『「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集』 - 平湯温泉エリア編 - は、「Kita Alps Traverse Route」の平湯温泉エリアの特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に「わかりやすく」、「共感できる形で」伝えられるよう、短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたストーリー集です。

来訪者がこのエリアで滞在する中で、宿やお店、バスの乗り換え場所、ビジターセンター・案内所、歩道や展望地などで、多岐にわたる利用サービスが提供されます。本冊子が、このエリアで利用サービスを提供するすべての関係者による、このエリアならではの旅づくりと旅の提供につながり、来訪者とこのエリアとの特別なつながりを強くしていくことに活用されることを期待しています。

I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集（以下「ストーリー集」）は、中部山岳国立公園南部地域の8つのエリア（上高地、山岳エリア、乗鞍高原、乗鞍岳、白骨温泉、新穂高温泉、平湯温泉、沢渡）ごとに特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に伝わりやすく短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたものです。

来訪者の方々に「Kita Alps Traverse Route」の価値に触れ、内面の変化を得てもらうことを目指し、ガイド事業者や旅行会社の方、各拠点の拠点施設や宿泊施設、飲食店、土産物店等でお客様と直接接する方、メディアの方等に活用いただくことを想定しています。

なお、本ストーリー集は、令和6年度時点に収集した情報をもとにまとめたもので、今後、内容面のさらなる充実、ターゲットやテーマに応じた磨き上げなど、計画策定後も活用をとおしてブラッシュアップを重ねていければと考えています。皆様も活用を通じてお気づきのことがあれば、ぜひ環境省中部山岳国立公園管理事務所までご意見をお寄せください。また、他のエリアのストーリー集をご覧になりたい場合も環境省中部山岳国立公園管理事務所までご連絡ください。

<ストーリー集の活用イメージ>

○ガイド事業者、旅行会社の方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を提供するプログラム・ツアーを造成する。
- ・本ストーリー集掲載のカードを使って、ツアーの最後にツアー中に触れられなかった価値についても情報提供する、あるいは同イエリアの別のテーマを取り上げたツアー商品等を紹介することで、来訪者に次回訪問のきっかけを与える。

○観光協会やビジターセンター等の拠点施設でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を意識して、来訪者に対して情報提供を行う。
- ・中部山岳国立公園南部地域内の拠点間の違いとつながりを説明することで、来訪者に対して「Kita Alps Traverse Route」の価値を紹介する。

○宿泊施設や飲食店、土産物店等でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・自身の宿や店で提供する商品等について、本ストーリー集を参考にストーリーをもって説明、販売することで、「ここならではの価値」のある商品として来訪者の購買意欲を高める。
- ・自身の宿や店で利用者から地域や商品等について質問を受けた際、本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を紹介する。
- ・本ストーリー集掲載のカードの内容をそのまま伝えるだけでなく、地元で働く人ならではの視点を盛り込みながら、適宜アレンジして伝えることで、「ここでしかできない体験」を提供する。

○メディアの方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を全国・世界へ発信する。
- ・本ストーリー集を活用した取組を進めている行政関係者や観光協会事務局等に取材をすることで、中部山岳国立公園南部地域における「松本高山 Big Bridge 構想」の実現に向けた動きを発信する。

本ストーリー集の構成は以下の図のとおりです。

「望ましい体験」は、このエリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、このエリアだからこそ体験しておくべき、このエリアならではの体験を、想定する旅行者像ごとに整理したものです。このエリアならではの体験ごとにストーリーと資源の解説がまとめられた「カード」が、このエリアを特徴づける資源の種類に応じた「カテゴリー」で分けられ整理されています。

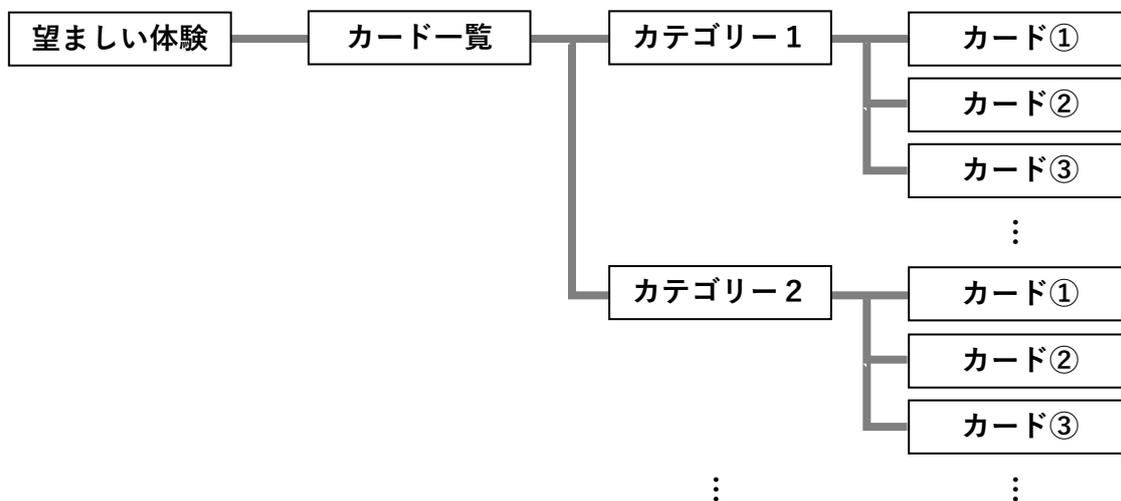


図 ストーリー集の構成

「カード一覧」には、各カードの体験を4つに分けた「ジャンル」と、旅の趣向により6つに分けた「旅行者分類」との対応を整理しています(各類型の定義はカード一覧の凡例をご覧ください)。

ジャンルや旅行者分類は、旅行のテーマやターゲットにあわせて、カードに示した体験や資源のストーリーを組み合わせる旅づくりを考える際の参考として活用することを想定しています。

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
地域の宝「平湯温泉」	1-①	老白猿が傷を治した温泉	WS		●		●	●	●
	1-②	湯量豊富で熱い源泉	WS	●	●	●	●	●	●
	1-③	天然温泉の証である温泉バイオマットとバイオフィルム	NE				●	●	●
	1-④	国のお墨付きを受けた国民保養温泉地	CA	●	●	●	●	●	●
	1-⑤	厳しい環境の中で地域の生活を支えてきた温泉	NE				●	●	●
	1-⑥	温泉にちなんだ平湯温泉ならではのイベント	CA	●	●			●	●
北アルプスの山 れた豊かな自然	2-①	乗鞍連峰から注ぐ平湯大滝	NE	●	●	●	●		
	2-②	焼岳火山群のアカンダナ山	NE				●		
	2-③	平湯のシンボル笠ヶ岳	NE				●		
	2-④	全国トップレベルの巨木・平湯大ネズコ	NE				●		

図 カード一覧の例

各カードの構成は以下のとおりです。

カード名は、ここならではの価値やストーリーを感じられる資源や体験、背景となる情報を一言で表すタイトルとなっています。

説明文やイラストは、他のエリアや他地域の資源との違い、ここならではの価値やストーリーを表現するように留意して作成しています。

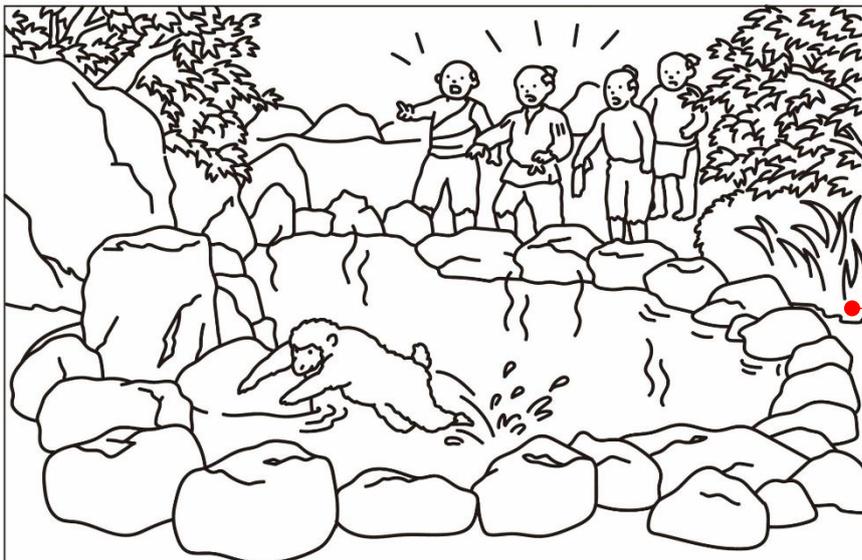
イラストの下部には、説明文の補足として、説明文に出てくる用語の解説や、説明文で紹介した価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介をしています。説明文のみで足りると判断したものは空欄の場合もあります。

平湯温泉ならではの価値・魅力1 地域の宝「平湯温泉」

1-①：老白猿が傷を治した温泉

戦国時代に武田家の武将が信州から峠を越えて飛騨へ進軍した際、疲弊した兵卒らは、平湯でおぼつかない足取りの一匹の老白猿が、湯に浸った後に飛び跳ねるようにして立ち去る様を見て、猿にならって湯に浸かって精気を取り戻したと言われる。

平湯温泉では炭酸水素塩泉、単純温泉、塩化物泉、硫黄泉と4つの泉質を楽しむことができ、胃腸病やリウマチ性疾患、神経症、皮膚病などに効果があるとされる。複数の泉質を楽しむことのできる宿、異なる泉質の湯を混合して提供している宿もある。



温泉・宿泊施設 平湯温泉には、21軒の宿泊施設があり、他にも公共温泉「平湯の湯」や「ひらゆの森」、「足湯公園」で温泉を楽しむことができる。白猿伝説の残る平湯温泉発祥の地「神の湯」は、残念ながら現在休業中だが、復旧工事が進められており、再開が心待ちにされる。

ここならではの価値、ストーリーを伝える説明文

ここならではの価値を表現したイメージしたイラスト

説明文の補足（用語の解説、価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介）

図 カードの例

II. 平湯温泉の望ましい体験

想定する旅行者像ごとに、平湯温泉エリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、平湯温泉だからこそ体験しておくべき、平湯温泉ならではのオススメの体験は以下のとおりです。

<温泉を楽しみたい人>

- 多様な泉質、豊富な湯量を誇る温泉に浸かり、心身を癒すとともに火山の恵みを体感する。
- 冬には平湯温泉の特徴である厳しい寒さと熱い湯のコントラストを楽しむ。

<温泉地での滞在を楽しみたい人>

- 温泉や地域の食文化を楽しみ、地域の暮らし・歴史を知ること、豪雪地帯の山里に生きる苦勞と喜び、知恵を学ぶ。
- 平湯自然探勝路や大ネズコトレッキングコースなど、平湯温泉内の散策・探勝コースで手軽に安心して自然と親しむ体験をする。

<上高地や新穂高、乗鞍岳など、他拠点のフィールドへ出かける人>

- 奥飛騨ビジターセンターや宿泊施設で上高地や乗鞍岳、新穂高など各フィールドの魅力に触れることで、実際に足を延ばして大自然の魅力に触れる。
- お腹を満たす、体調を整える、安全登山のための情報を得る、旅のワクワク感を高めるなど、これからフィールドへ出かける人自身の準備を整える。
- フィールドから戻った後、温泉に浸かって山歩きの疲れを癒すとともに、この土地ならではの食文化に触れ、山では味わえない人里の温かさ、豊かさに触れる。

Ⅲ. 平湯温泉ならではの体験ストーリー

<カード一覧>

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
地域の宝「平湯温泉」	1-①	老白猿が傷を治した温泉	WS		●		●	●	●
	1-②	湯量豊富で熱い源泉	WS	●	●	●	●	●	●
	1-③	天然温泉の証である温泉バイオマットとバイオフィルム	NE				●	●	●
	1-④	国のお墨付きを受けた国民保養温泉地	CA	●	●	●	●	●	●
	1-⑤	厳しい環境の中で地域の生活を支えてきた温泉	NE				●	●	●
	1-⑥	温泉にちなんだ平湯温泉ならではのイベント	CA	●	●			●	●
北アルプスの山々に囲まれた豊かな自然環境	2-①	乗鞍連峰から注ぐ平湯大滝	NE	●	●	●	●		
	2-②	焼岳火山群のアカンダナ山	NE				●		
	2-③	平湯のシンボル笠ヶ岳	NE				●		
	2-④	全国トップレベルの巨木・平湯大ネズコ	NE				●		
	2-⑤	温泉のありがたみがより高まる!? 豪雪・極寒の冬	WS	●	●	●		●	●
	2-⑥	手軽に雄大な自然と親しめる環境	SA	●	●		●	●	
登山の玄関口として多くの人を呼び寄せる地	3-①	平湯と外界をつなぐ平湯峠、安房峠	NE	●		●		●	
	3-②	笠ヶ岳を開山し、多数の仏像を残した円空上人	CA				●		
	3-③	平湯から乗鞍岳を目指したウォルター・ウェストン	CA	●	●	●	●		
	3-④	平湯を変えた篠原懺然（禄次）	CA				●		
	3-⑤	乗鞍岳や上高地への出発点	CA	●	●	●	●		
	3-⑥	人を大切にし、地域外の人を歓迎する平湯人	CA	●	●	●	●	●	●
山とともに生きる奥飛騨ならではの暮らし	4-①	厳しい冬を乗り越えるための知恵が詰まった住宅	CA		●		●	●	
	4-②	飛騨の食文化に学ぶ、長期保存食	CA	●	●	●	●	●	●
	4-③	温泉地ごとに異なる個性豊かな行事や民俗	CA		●		●	●	

■ジャンルの軸

- ・ Nature&Ecosystem&Conservation (NE) …自然探勝、動植物観察、マイカー規制など自然と人の共生に係る保全の取組など
- ・ Culture&Art (CA) …食文化、生活などの異文化体験、伝統工芸や芸術作品等の鑑賞、歴史探勝、地域の歴史や文化を守るための取組など
- ・ Wellness&Spiritual (WS) …温泉、リトリート体験、リフレッシュなど
- ・ Sports&Activity (SA) …登山、ロングトレイル、スキー、キャンプなど

■旅行者分類

- ・ Sightseeing Tourist (ST) …有名観光地を巡る一般的な旅行者。色々な国や地域に行ってみたい層。
- ・ Resort Vacationer (RV) …海山川などのリゾート地を目指すパッケージ旅行者。
- ・ Wander Backpacker (WB) …世界中を放浪するバックパッカー旅行者。
- ・ Educated Traveller (ET) …異文化好奇心を持つ旅慣れた知的旅行者。
- ・ FR Visitor (FR) …南部地域のリピーター、親戚や友人等の訪問を目的とする VFR 旅行者。
- ・ Special Interest Hunter (SI) …特定の趣味を旅の主目的とする旅行者。

平湯温泉ならではの価値・魅力 1

地域の宝「平湯温泉」

平湯温泉は、戦国時代に白猿に導かれた武将が発見したという伝説を持つ。平湯温泉の特徴は豊富な湯量と高温な湯で、これは全国トップレベルの水準である。

平湯はそば等の涼しい土地を好む穀物類ですら生育が難しいほど冷え込みの厳しい環境のため、古くから温泉の成分や蒸気、地熱等を利用した生活を営んできた。その一端は、特産品の生産、土産物の製造に見て取ることができる。

豊富な湯量を誇る温泉は、厳しい環境の中で地域の生活を支える貴重な資源となっている。

1-①：老白猿が傷を治した温泉

1-②：湯量豊富で熱い源泉

1-③：天然温泉の証である温泉バイオマットとバイオフィルム

1-④：国のお墨付きを受けた国民保養温泉地

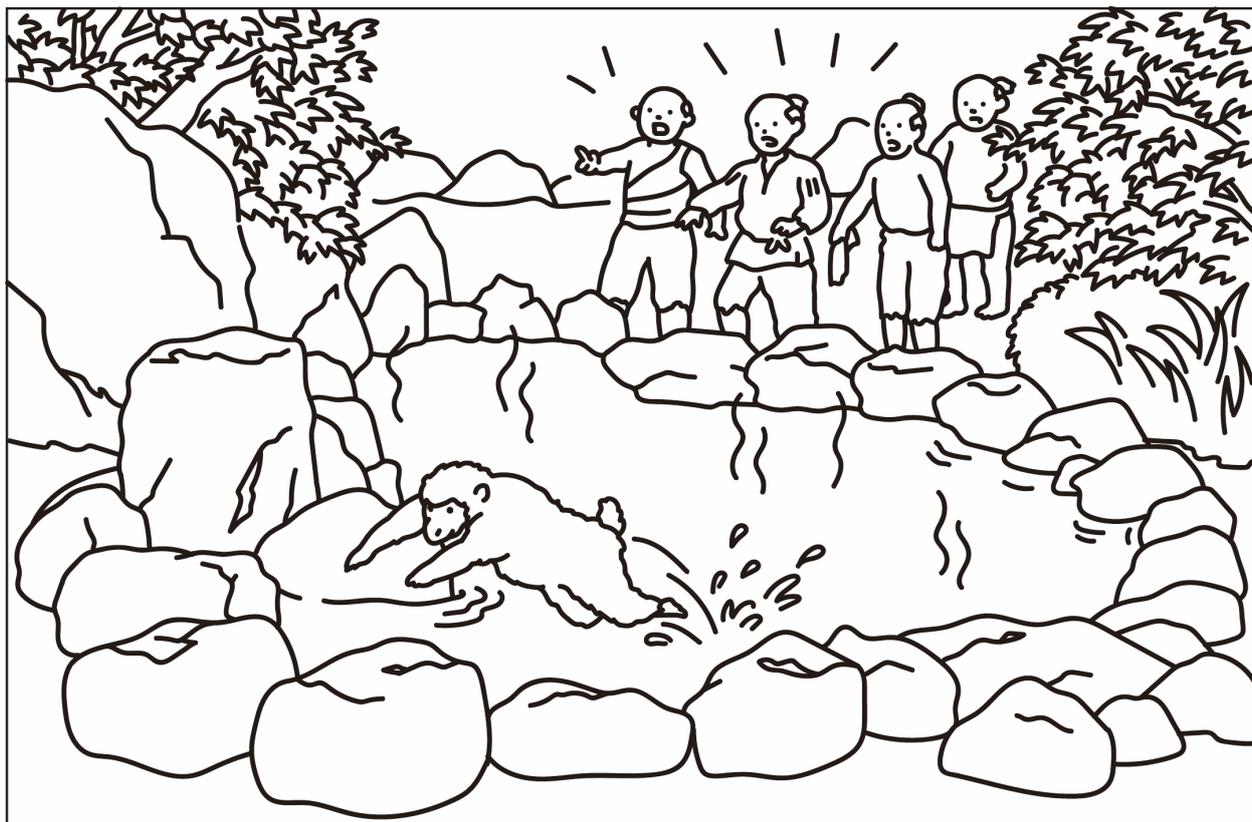
1-⑤：厳しい環境の中で地域の生活を支えてきた温泉

1-⑥：温泉にちなんだ平湯温泉ならではのイベント

1-①：老白猿が傷を治した温泉

戦国時代に武田家の武将が信州から峠を越えて飛騨へ進軍した際、疲弊した兵卒らは、平湯でおぼつかない足取りの一匹の老白猿が、湯に浸った後に飛び跳ねるようにして立ち去る様を見て、猿にならって湯に浸かって精気を取り戻したと言われる。

平湯温泉では炭酸水素塩泉、単純温泉、塩化物泉、硫黄泉と4つの泉質を楽しむことができ、胃腸病やリウマチ性疾患、神経症、皮膚病などに効果があるとされる。複数の泉質を楽しむことのできる宿、異なる泉質の湯を混合して提供している宿もある。



温泉・宿泊施設 平湯温泉には、21軒の宿泊施設があり、他にも公共温泉「平湯の湯」や「ひらゆの森」、「足湯公園」で温泉を楽しむことができる。白猿伝説の残る平湯温泉発祥の地「神の湯」は、残念ながら現在休業中だが、復旧工事が進められており、再開が心待ちにされる。

1-②：湯量豊富で熱い源泉

平湯温泉地内には約 40 もの井戸・源泉があり、その数は宿より多く、一般家庭にも温泉が引かれている。平湯温泉全体で毎分 8,600L、1 日約 1,200 万 L もの湯が噴き出し、これは一般家庭の浴槽に置き換えると約 130 年分に値し、草津温泉や別府温泉に次いで全国トップレベルの水準である。

90 度を超える源泉もあるなど高温な湯も特徴の一つで、寒さの厳しい平湯においても通年加温不要で源泉かけ流しの温泉を楽しむことができる。



温泉・宿泊施設 平湯温泉には、21 軒の宿泊施設があり、他にも公共温泉「平湯の湯」や「ひらゆの森」、「足湯公園」で温泉を楽しむことができる。ガイドツアーに参加すれば、源泉を見学することも。

1-③：天然温泉の証である温泉バイオマットとバイオフィルム

平湯温泉では、湧出口付近に白や茶、緑の膜（バイオマット）が張っていたり、浴槽の表面に油膜（バイオフィルム）のようなものが浮いていることがある。これらは高温環境を好む細菌（好熱性微生物）などによって形成される微生物被膜で、決して害のあるものではなく、天然温泉の証としてむしろ好意的にとらえるべきものである。

好熱性微生物は非常に原始的な形質を持っており、好熱性微生物によるバイオマット形成のメカニズムは、地球誕生から生態系形成までの足取りをたどる手がかりともされている。



温泉・宿泊施設 平湯温泉には、21軒の宿泊施設があり、他にも公共温泉「平湯の湯」や「ひらゆの森」、「足湯公園」で温泉を楽しむことができる。

1-④：国のお墨付きを受けた国民保養温泉地

良質で豊富な湯量を誇る平湯温泉は、古くから湯治場として利用され、その歴史は奥飛騨温泉郷の中で最も古いとされる。宿泊施設のほかに売店や商店、食堂などが密集しており、落ち着いた温泉街の雰囲気となっている。

恵まれた泉質、湯量、温度を誇り、温泉を核とした歴史や文化、まちなみが広がる平湯温泉は、昭和39（1964）年に国民保養温泉地に指定された。その後、福地温泉、新平湯温泉、栃尾温泉、新穂高温泉の4つの温泉地も加わり奥飛騨温泉郷国民保養温泉地となっている。



国民保養温泉地 国民保養温泉地とは、温泉の公共的利用増進のため、温泉利用の効果が十分期待され、かつ、健全な保養地として活用される温泉地を「温泉法」に基づき、環境大臣が指定するもの。国民保養温泉地の選定は、温泉地の泉質および湧出量（療養に適した泉質かどうか、湯量が豊富かどうか）、温泉地の環境等（保養地に適した自然環境、まちなみ、歴史、風土文化等を持っているかどうかなど）の基準によって行われている。昭和29（1954）年から指定が始まり、令和4（2022）年10月現在、全国で79箇所が指定されている。

平湯民俗館 古民家が目印の平湯民俗館の周辺には、食事処や日帰り温泉、足湯、神社等、平湯の魅力が凝縮されている。平湯に訪れたらまず訪れたいスポット。

1-⑤：厳しい環境の中で地域の生活を支えてきた温泉

奥飛騨温泉郷を含む旧上宝村では、米や稗、そば、桑等が栽培されていたが、平湯は奥飛騨の中でも特に冷え込みが厳しく、一般に涼しい土地を好むとされるそばですら、生育が難しいとされた。そうした厳しい環境の中、主食となる穀物類を得るため、少なくとも江戸時代には温泉の湯を引いた稗田を作り、稗を生産していたとされる。

その後も温泉を活用した様々な産業が試みられ、これまでに温泉水を活用したスッポン等の養殖、温泉の蒸気を活用した温泉卵や湯豆腐、蒸し野菜の製造、温泉やその成分を活用した化粧水や石鹸、入浴剤等の製造等が行われてきた。このほか、暖房や屋根・駐車場の融雪等への温泉活用も進み、冬季の暮らしを支えている。

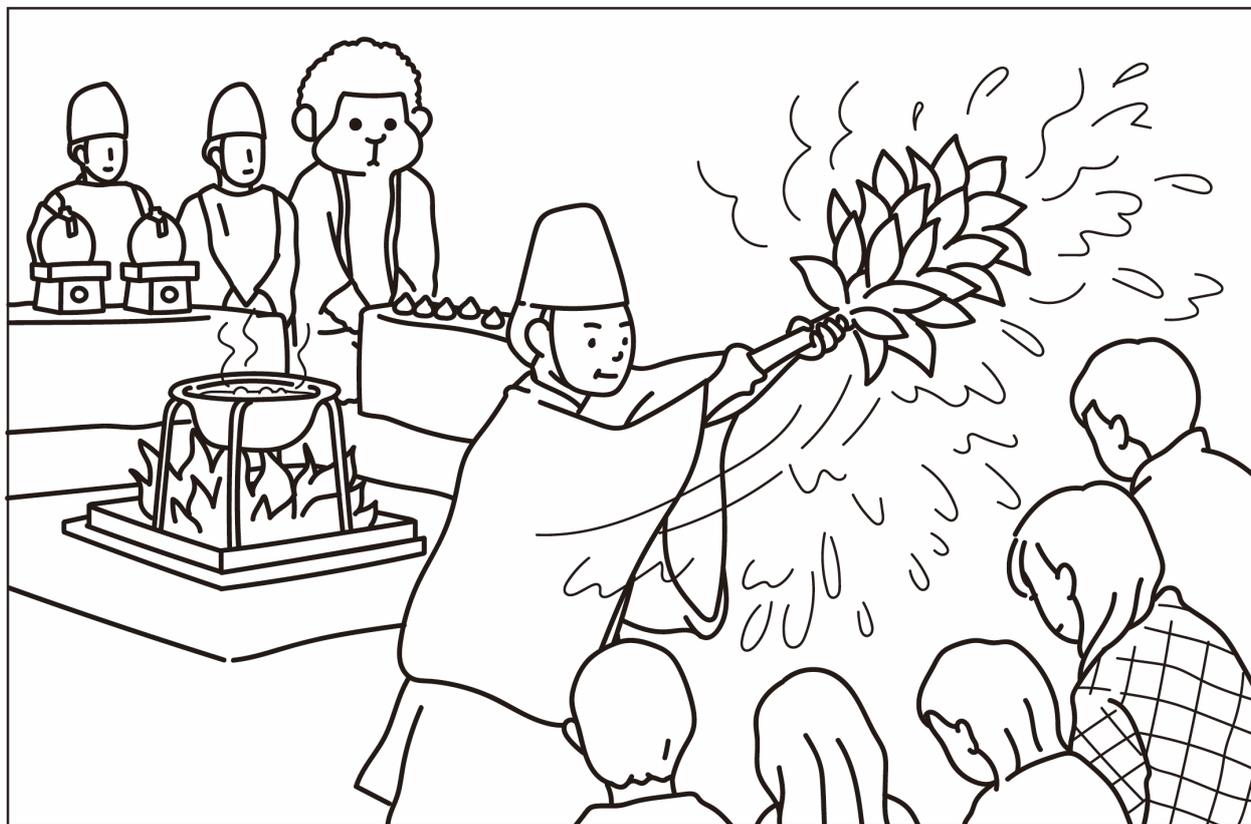
温泉を活用した産業や暮らしは、平湯にとっては古くから当たり前のものだが、化石燃料に頼らない熱源はエコロジカルで先進的なものとも言える。



土産物屋 平湯温泉内の土産物屋や売店では、温泉卵や湯の花、石鹸、化粧水など、温泉を活用して作られた土産物を購入することができる。

1-⑥：温泉にちなんだ平湯温泉ならではのイベント

温泉にちなんだイベントとして、湯花まつり、露天風呂の日が挙げられる。いずれも歴史はそれほど長くないが、古くから温泉とともに発展してきた平湯温泉ならではのイベントとして親しまれている。



湯花まつり 毎年5月15日に行われる温泉に感謝するお祭り。各源泉から持ち寄った温泉を集めて大きな釜で沸かし、参拝者に振りかけて無病息災、商売繁盛を願う。同日に絵馬を販売する「絵馬まつり」も行われる。

露天風呂の日 毎年6月26日に奥飛騨温泉郷内の指定の露天風呂が無料開放される。日本有数の露天風呂数を誇る奥飛騨温泉郷ならではのイベント。

平湯温泉ならではの価値・魅力 2

北アルプスの山々に囲まれた豊かな自然環境

平湯温泉は、標高 1,250m に位置し、段丘堆積物、扇状地堆積物等の平坦な地形となっている。

平湯の温泉街や周辺の峠からは、乗鞍岳や焼岳、笠ヶ岳、槍・穂高連峰など、北アルプスの山々を望むことができるほか、落葉広葉樹林から亜高山帯針葉樹林と変化に富んだ植生を観察することができる。

平湯温泉一帯は中部山岳国立公園の集団施設地区となっており、温泉利用のほか、キャンプや自然散策、スキー等、地域の自然環境を活かしたアクティビティを楽しむことができる。

2-①：乗鞍連峰から注ぐ平湯大滝

2-②：焼岳火山群のアカンダナ山

2-③：平湯のシンボル笠ヶ岳

2-④：全国トップレベルの巨木・平湯大ネズコ

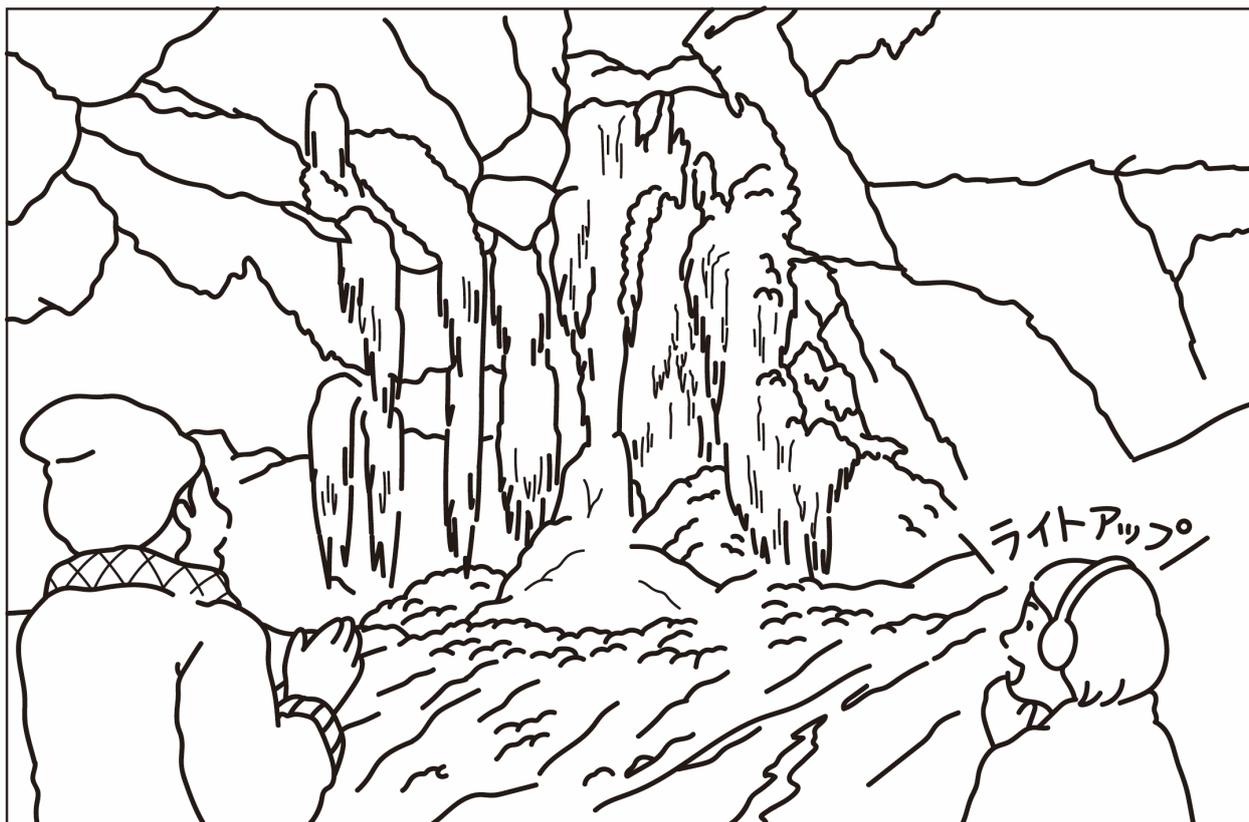
2-⑤：温泉のありがたみがより高まる!? 豪雪・極寒の冬

2-⑥：手軽に雄大な自然と親しめる環境

2-①：乗鞍連峰から注ぐ平湯大滝

平湯大滝は乗鞍岳北部の四ツ岳から4万年前に流れ出した溶岩の上から流れ落ちる幅6m 落差64mの滝で、乗鞍連峰とのつながりや乗鞍連峰の雄大さを体感することができる。日本の滝百選、飛騨三大名瀑に選ばれ、県の名勝にも指定されている。

夏には新緑、秋には紅葉と四季折々の美しい風景が見られるが、特に冬の結氷は圧巻のスケールで、2月にはライトアップイベント・結氷まつりが開催される。

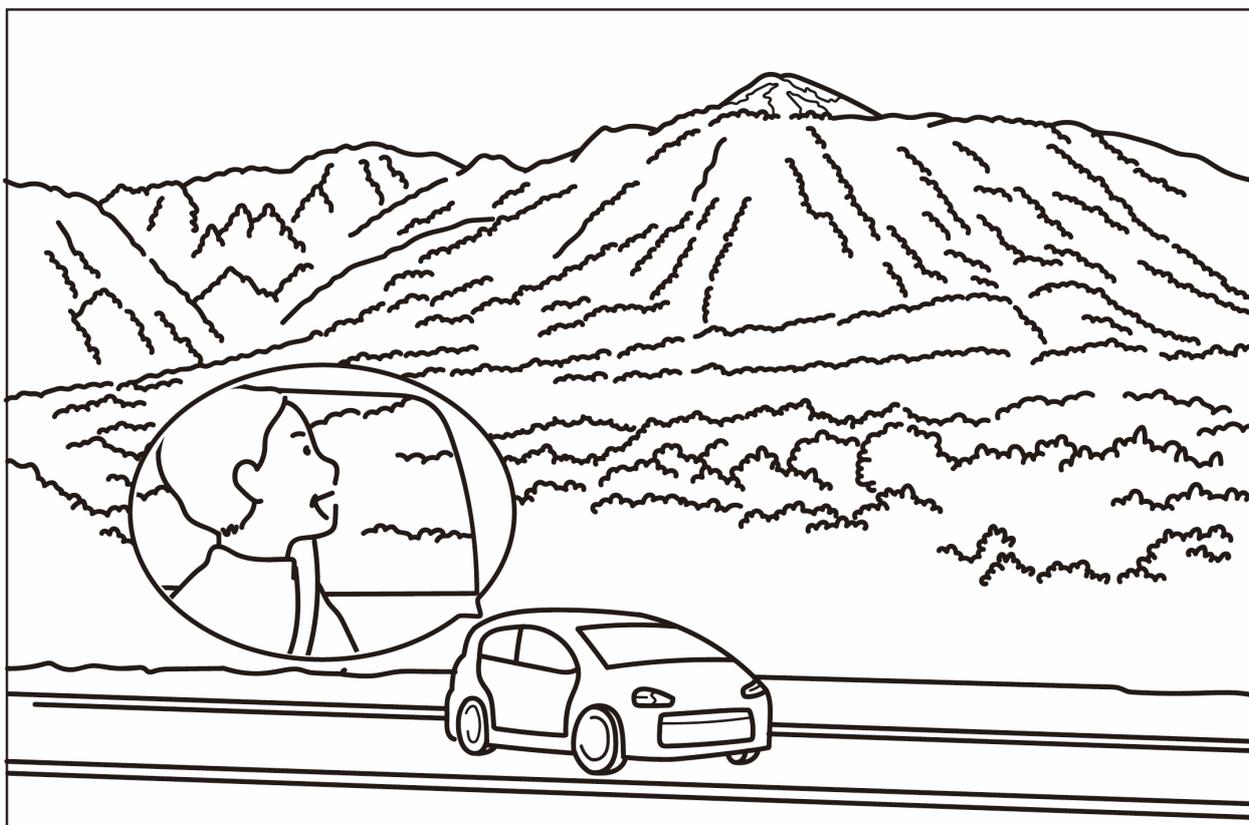


平湯大滝 平湯大滝のすぐ近くまで車道が通っており、駐車場も整備されているが、平湯民俗館から徒歩30分ほどかけて散策するのも良い。

2-②：焼岳火山群のアカンダナ山

平湯温泉街の東、あかんだな駐車場の背後に見えるアカンダナ山は焼岳火山群の一つで、有史以来、噴火等の火山活動は記録されていないものの、火山噴出物などにより過去二万年以内に噴火が起こっていたことが確認できることから活火山とされており、平湯温泉はこのアカンダナ山の地下から湧出している。

登山道は整備されておらず登山対象とはなっていないが、秋には紅葉と雪が重なる赤・黄・白の三段紅葉が見えることがある。地元の人でも1年に1回見られるか、見られないかというほど貴重な光景で、旅行中に目にすることができれば非常に幸運と言える。



平湯街道 アカンダナ山は、あかんだな駐車場のほか、平湯街道の各所からも美しく見ることができる。ただし、駐車帯のない区間も多いため、見学の間には注意が必要。

2-③：平湯のシンボル笠ヶ岳

笠ヶ岳はどの方向から見ても美しい笠の形をしており、山全体が旧上宝村内にあることから、上宝村の山として親しまれてきた。

笠ヶ岳の東側は崩落壁となっており、氷河地形のカールや亀甲礫が見られる。笠ヶ岳の南側に位置する平湯からは、約6,500万年前の噴火で生じた笠ヶ岳南部のカルデラ地形を眺めることができる。

平湯バスターミナル周辺など、平湯の温泉街の中心部からも望むことができ、日常の風景に溶け込んでいることから、笠ヶ岳は平湯のシンボルとも言える。



笠ヶ岳への眺望点 平湯バスターミナル周辺、平湯温泉スキー場周辺など、平湯温泉の各所から笠ヶ岳を望むことができる。あちこちで笠ヶ岳を目にしているうちに、一番良く見えるスポットを探してみたいかなるかもしれない。

2-④：全国トップレベルの巨木・平湯大ネズコ

ネズコは飛騨の呼び方で、和名はクロベというヒノキ科の植物。平湯大ネズコは、幹周り 7.5m、樹高 23m、推定樹齢は 1,000 年とも言われ、標高 1,500m の高所では驚異的な大きさとされる。一時は日本一大きなクロベとも言われ、林野庁の「森の巨人たち百選」にも選ばれている。

平湯キャンプ場の裏手から大ネズコトレッキングコースが整備されており、ややアップダウンのあるコースを片道 30 分ほど歩くと、大ネズコの足元まで到達することができる。現在は東北地方のクロベが日本一と言われるが、平湯大ネズコのように間近で観察できるものは全国的に見ても貴重である。



大ネズコトレッキングコース 平湯キャンプ場・平湯温泉第 2 駐車場より徒歩 30 分程度で大ネズコにたどり着ける。往復 1 時間程度のコースだが、勾配があり、やや険しい道のため、事前に必要な装備を確認したい。このコースを巡るガイドツアー等も開催されている。

2-⑤：温泉のありがたみがより高まる!? 豪雪・極寒の冬

平湯温泉は奥飛騨温泉郷の中で最も標高が高く、冬の冷え込みは最も厳しいとされる。かつては積雪が8～9mに上ることもあり、温暖化の影響で雪が減ったと言われる現在でも、他の地域よりも雪の多い豪雪地帯である。極寒の中、露天風呂に浸かる体験は格別で、気温が低く、湯は熱い、平湯ならではの体験と言える。

他より気温が低い傾向は夏も変わらず、近年全国的に夏の酷暑が深刻化する中、真夏でも熱帯夜となる日は限られており、避暑地としての魅力もある。



露天風呂 平湯温泉の宿泊施設は、露天風呂がある施設も多い。また、公共温泉「平湯の湯」、「ひらゆの森」ともに露天風呂を看板としており、日帰り入浴でも露天風呂の魅力を味わうことができる。

2-⑥：手軽に雄大な自然と親しめる環境

平湯温泉は国立公園の集団施設地区となっており、ビジターセンターやキャンプ場、スキー場、探勝路など、手軽に自然と親しむための環境が整えられてきた。

平湯キャンプ場ではシラカバ林に囲まれた環境で笠ヶ岳を望みながらキャンプ、平湯温泉スキー場では初心者から上級者までパウダースノーを堪能、平湯自然探勝路では温泉街からアクセスし徒歩 1~2 時間程度で原生林の中を探勝、ビジターセンターではクラフトイベントやガイドツアー等に参加など、体力や年齢、季節・天候に合ったレベルで自然と親しむことができる。

最近では e-bike や電動キックボード、バギー等の貸出も行われており、車を降りて風を感じながら周遊することもできる。今後は、輝山（てらしやま）や乗鞍岳への登山道の再整備、あんばの池周辺のトレッキングコースの整備など、散策・探勝利用のさらなる充実を検討する動きもある。



奥飛驒ビジターセンター 平湯バスターミナル横にある奥飛驒ビジターセンターは、周辺の自然公園や天候、観光、交通等の情報を発信しており、旅の出发点となる施設である。アクティビティに迷ったら、ビジターセンターを訪れて相談してみてもいい。

平湯自然探勝路 ひらゆの森の裏手に整備されている約 2km の周回コース。一部に急な階段があるが、ほとんどは平坦で四阿も整備されている。草花や紅葉をゆったりと楽しむことができる。

平湯温泉ならではの価値・魅力3 登山の玄関口として多くの人を呼び寄せる地

東西の峠道が交わる平湯は、古くから北アルプス登山の玄関口として親しまれ、播隆上人やウォルター・ウェストン、篠原懽然など、著名人がこの地から周辺の名峰を目指した。

かつては冬になると峠道が雪で断絶され、陸の孤島と呼ばれたが、現在は道路整備が進み、年間を通じて峠越えができるようになったことから、高山市側から中部山岳国立公園南部地域への玄関口、上高地、乗鞍岳、新穂高、高山などの観光地を結ぶ交通の要衝として多くの人が行き来する地となっている。

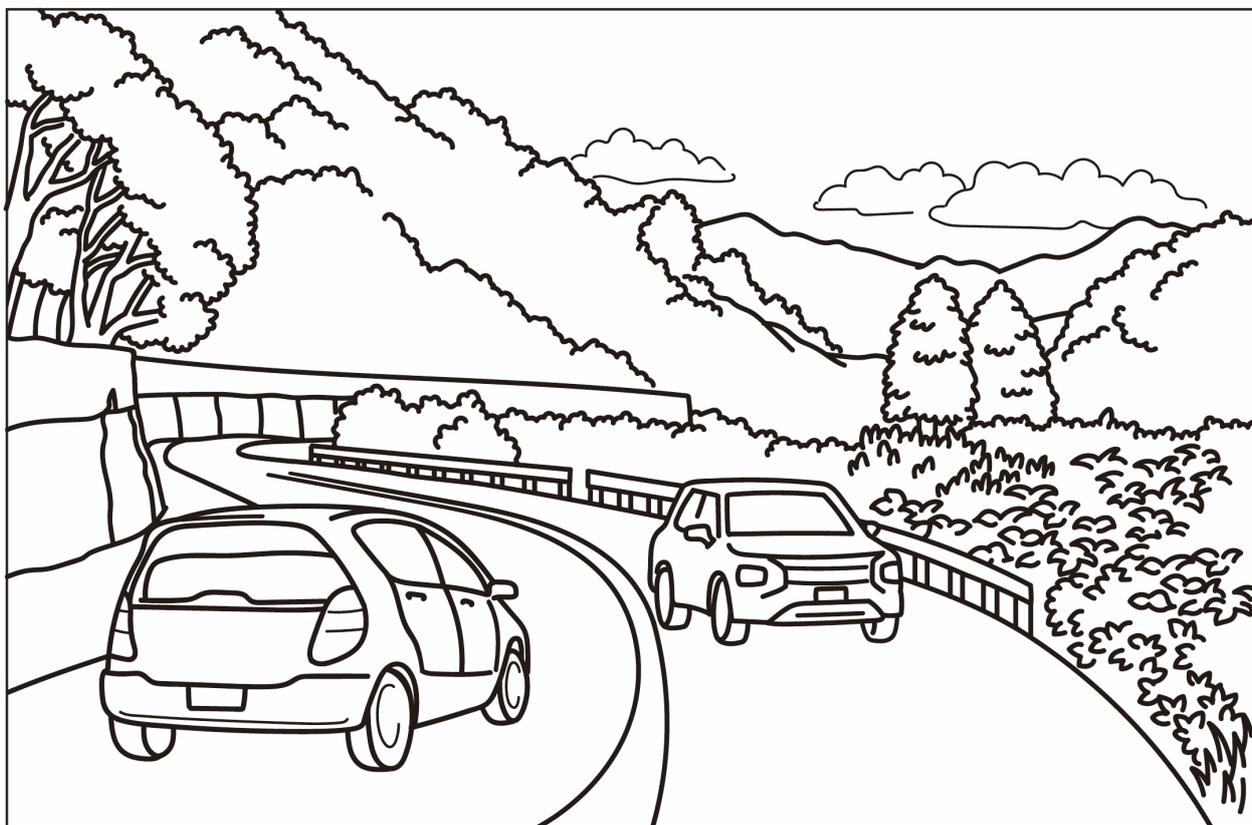
- 3-①：平湯と外界をつなぐ平湯峠、安房峠
- 3-②：笠ヶ岳を開山し、多数の仏像を残した円空上人
- 3-③：平湯から乗鞍岳を目指したウォルター・ウェストン
- 3-④：平湯を変えた篠原懽然（禄次）
- 3-⑤：乗鞍岳や上高地への出発点
- 3-⑥：人を大切にし、地域外の人を歓迎する平湯人

3-①：平湯と外界をつなぐ平湯峠、安房峠

四方を山々に囲まれた平湯では、市街地への行き来は峠越えが必須となる。かつては急カーブ、急こう配の狭い峠道が平湯と外界をつなぐ唯一の道路で、冬にはこの道路も雪で断絶されるため、平湯は陸の孤島と化していたが、昭和53（1978）年に平湯トンネル、平成9（1997）年には安房トンネルが開通したことで厳しい峠越えから解消され、冬季も含めて通年峠越えができるようになった。

かつての峠道はいわゆる「旧道」となった今も通行可能で、ダケカンバやナナカマド等の亜高山帯の植生の中を通り、平湯峠からは焼岳や白山、安房峠からは焼岳や穂高等を望むことができることから、ドライブやツーリングの対象として愛されている。

一方、トンネルを利用すると周辺の風景が望めない代わりに、トンネルを抜けて平湯に入った瞬間に温泉街の街並みや雪景色が広がる光景は、自ずと平湯温泉への到着を実感させてくれる。



平湯峠 平湯峠は乗鞍スカイラインと県道との分岐点にある峠で全長14.4km、つづら折りの続く難所で、冬季には通行止めとなる。標高1,684mで眺望が良く、若山牧水も峠からの絶景を歌に詠んでおり、峠の頂上付近には歌碑が残されている。

安房峠 安房峠は岐阜県と長野県の県境、アカンダナ山と安房山の上に位置する峠で全長15.6km、こちらもつづら折りの続く難所で、冬季には通行止めとなる。標高1,790mで眺望が良い。

3-②：笠ヶ岳を開山し、多数の仏像を残した円空上人

平安時代以降、全国各地で霊山での荒行を通して呪力を獲得する山岳仏教が生まれてきた。鎌倉時代になると、それらの僧や修験者たちにより登拝信仰の山として次第に開かれていったが、険しい飛驒の山々は人々を寄せ付けず、秘境の地として取り残され、信仰の霊山として開かれていくのは江戸時代に入ってからのことである。

笠ヶ岳を再興した人物としては播隆上人が有名だが、それ以前に初めて笠ヶ岳で修行を行ったのが円空上人である。円空上人は、笠ヶ岳や乗鞍岳での修行を終えた後、平湯の観音堂に籠もり多数の仏像を刻んだ。すぐに平湯の人とも馴染み、住民の依頼で観音像や大黒天像を刻んだり、説法をしたりもしていたとされる。

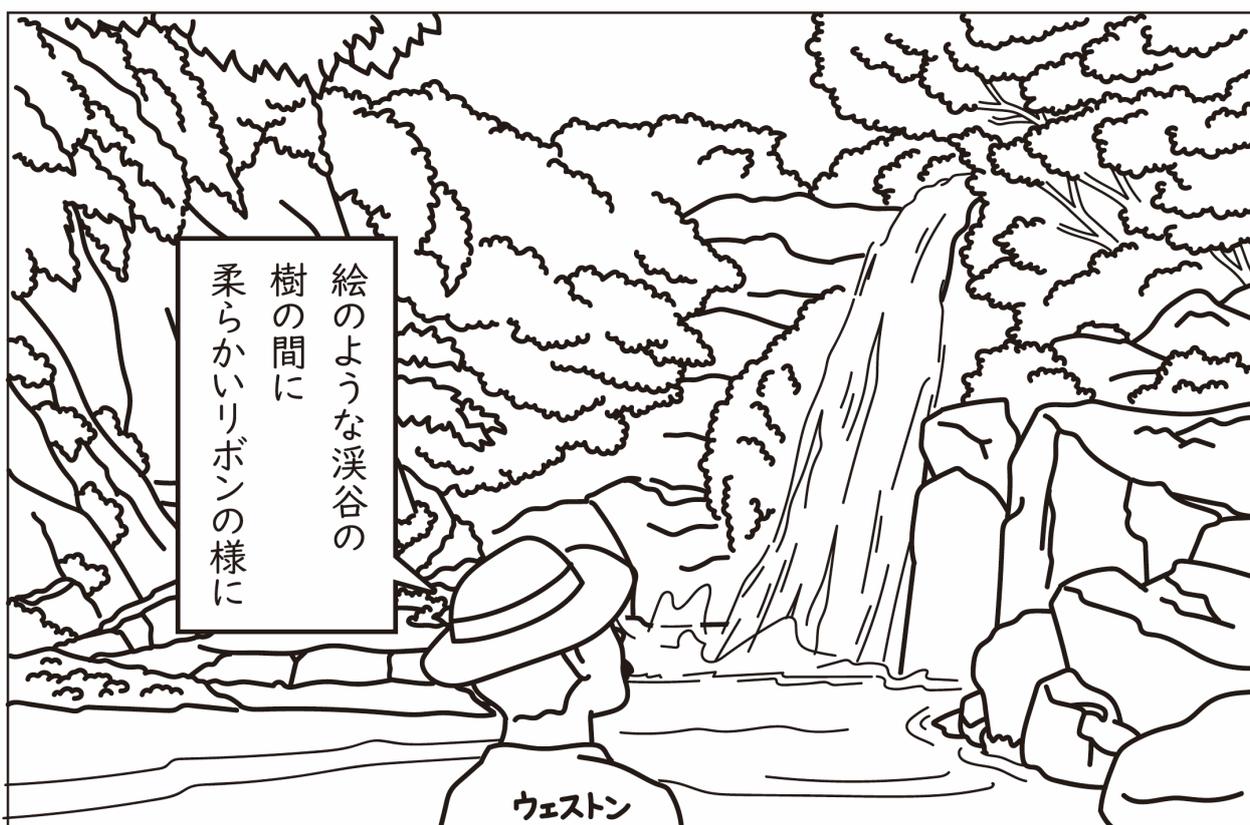


上宝ふるさと館 円空上人に関する資料や円空仏は高山市上宝町本郷にある上宝ふるさと館に展示されている。平湯温泉の中心地から車で約30分、路線バスで50分ほど、入館料無料である。

3-③：平湯から乗鞍岳を目指したウォルター・ウェストン

日本近代登山の父として、上高地や槍・穂高連峰との関わりがよく知られるウォルター・ウェストンだが、上高地を訪れたのと同じく明治24（1891）年に高山から平湯に入りしばらくの間、平湯に滞在していた。

滞在中は平湯を拠点として乗鞍岳等への登山を試みており、かつて平湯大滝から沢沿いに通っていた登山道を使って乗鞍岳を目指したとされ、平湯大滝については『日本アルプスの登山と探検』の中で「絵のような溪谷の樹の間に柔らかいリボンの様に」と表現し絶賛している。



平湯大滝 平湯大滝のすぐ近くまで車道が通っており、駐車場も整備されているが、平湯民俗館から徒歩30分ほどかけて散策するのも良い。

3-④：平湯を変えた篠原懽然（禄次）

鳥取生まれ、神戸育ちの懽然は、幼い頃に母と死別し、14歳の頃には父親の事業が傾いたことで、働きながら勉学に励む暮らしを送っていた。19歳の頃、苦学と無理がたたわり若くして死の淵に立たされた懽然は、自らの信仰と精神的修養によって病気を克服しようと山中修養を決意し、いくつかの候補の中から上宝村・平湯を選んだ。

以降、教員を勤めながら、平湯の地元開発および習俗の改革に熱心に取り組み、青年会等の自治活動の指導、工女供給組合設立、登山道の整備や標識の設置等に励み、「平湯の聖人」、「飛騨の社会教育の父」などと呼ばれている。



篠原懽然記念館 篠原懽然に関する資料は、篠原懽然記念館に展示されている。記念館は平湯民俗館に隣接されており、無料で見学することができる。

篠原懽然遭難の碑 篠原懽然は平湯での活躍の後、東京や大阪に移動して活動を続けていたが、平湯の人々の懇請もあり平湯へ帰ることを決めた。しかし、平湯へ向かう途中、安房峠で猛吹雪に遭い、平湯の村を目前にして凍死してしまったという哀話が残る。安房峠の懽然遭難地には、慰霊碑が建立されている。

輝山登山道 篠原懽然が山中修養を行った輝山（てらしやま）。篠原懽然の没後100年を記念して、平湯温泉から輝山荘跡まで登山道が整備された。地域住民の懽然に対する思いが詰まった登山道を歩けば、懽然の功績や地域住民との絆に思いを馳せることができるかもしれない。また、輝山荘跡に立てば、平湯温泉街を見下ろすことができ、懽然が見た景色に触れることができる。

3-⑤：乗鞍岳や上高地への出発点

東西の峠道が交わり、周辺の山々へのアクセスが良い平湯。その立地から、乗鞍岳、上高地のマイカー規制の拠点となっている。

岐阜県側から乗鞍岳、上高地を訪れる人は、平湯バスターミナルやあかんだな駐車場からバスに乗ることとなるため、自ずと「登山基地」としての役割を担う。

大自然を味わったあと、平湯に戻ってきて温泉に浸かり、この土地ならではの食事をすれば、人里の温かさ・豊かさがより一層身に染みるはずである。



マイカー規制 上高地では昭和 50 (1975) 年、乗鞍岳では平成 15 (2003) 年からマイカー規制が行われている。バス、タクシー、自転車、その他許可を受けた車両に限って通行可能とされており、高山側からマイカーやレンタカーで訪れた人は平湯で乗り換えが必要となる。

3-⑥：人を大切にし、地域外の人を歓迎する平湯人

地元に住む方々は「平湯はみな仲が良く、外の人を歓迎する雰囲気がある」という。

かつて平湯には鉱山があり、鉱山の繁栄と衰退に伴い地域外から人が出入りした。また、戦後の農地解放でも多くの人が入流した。人の出入りを繰り返してきた地だからこそ、自然と外の人を受け入れられる風土が育まれたのかもしれない。また、古くから湯治場、登山の玄関口として多くの人を受け入れてきた平湯だからこそ、訪れる人・移り住む人を歓迎する文化が根付いているのかもしれない。

平湯温泉ではぜひ地域の方々との会話も楽しみたい。



宿泊施設等 平湯温泉には21軒の宿泊施設があり、他にも土産物や飲食店、ビジターセンター等がある。来訪者を受け入れる各施設では、平湯で生まれ育った人、平湯に移り住んだ人、平湯へ働きに来ている人など、働く人皆が平湯を愛する平湯人として温かく歓迎してくれるだろう。

平湯温泉ならではの価値・魅力4 山とともに生きる奥飛騨ならではの暮らし

奥飛騨では豪雪地帯の山間部ならではの、厳しい冬を過ごすための工夫を凝らした住宅、食文化が見られる。

暮らしぶりや祭り等の文化は奥飛騨温泉郷全体で共通点も多いが、5つの温泉地ごとに少しずつ異なる発展を遂げている部分もある。

松本市側との文化の違い、また奥飛騨温泉郷という小さなエリアの中での文化の違いは、奥飛騨温泉郷の見どころの一つでもある。

4-①：厳しい冬を乗り越えるための知恵が詰まった住宅

4-②：飛騨の食文化に学ぶ、長期保存食

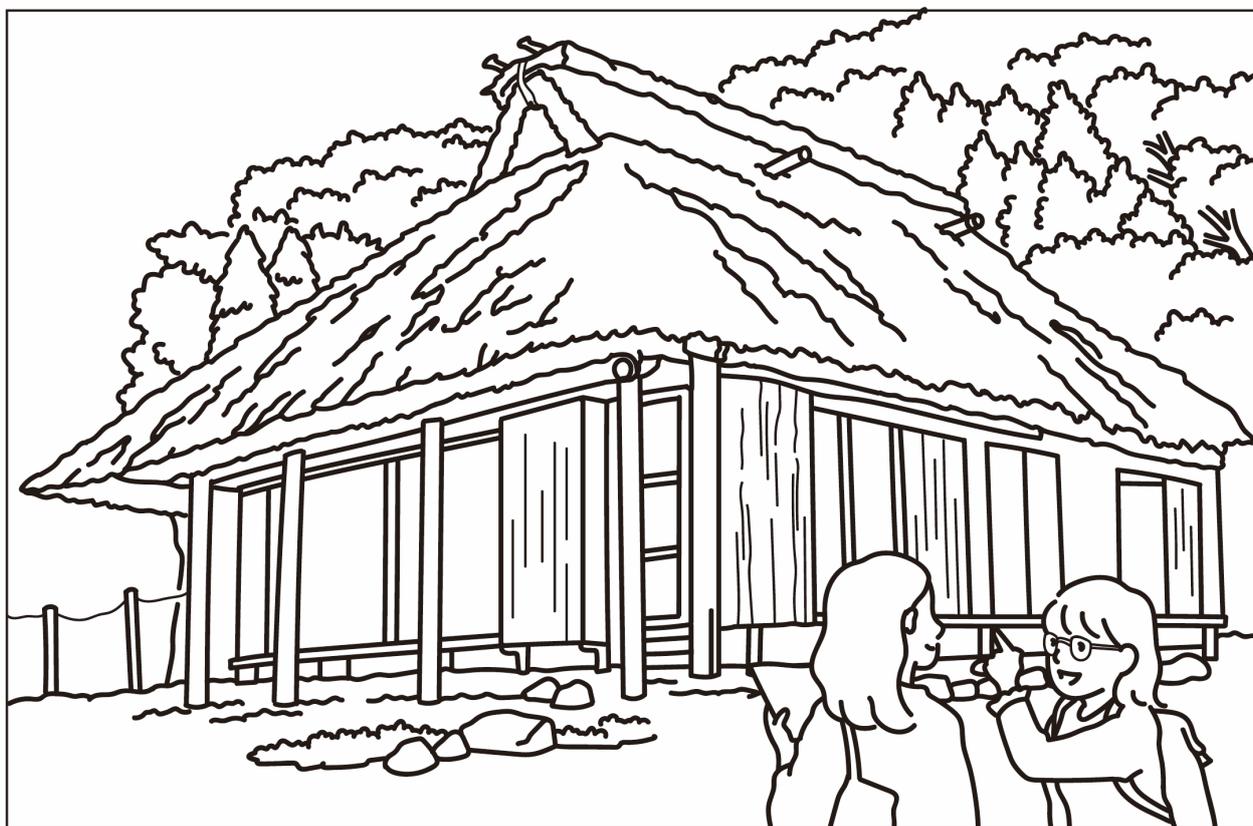
4-③：温泉地ごとに異なる個性豊かな行事や民俗

4-①：厳しい冬を乗り越えるための知恵が詰まった住宅

平湯には、40年以上前に富山県利賀村から移築した合掌造「旧高桑家」や蔵柱地区から移築した高山市指定文化財の「旧豊坂家」があり、平湯民俗館として一般に公開され、開館時間中は無料で自由に見学・休憩することができる。隣接して寸志で利用できる日帰り入浴施設「平湯の湯」もある。

合掌造や囲炉裏は奥飛騨独自の文化ではないものの、寒さ極まる中、**囲炉裏の周りで一家団らんする風景は、かつての平湯においても一般的な日常的一幕であった。**また、旧豊坂家に見られるような、急こう配の茅葺屋根であったり、馬を飼育するための「マヤ」や、秋の取り入れ作業や藁細工等を行う「ニワ」が家の中に設けられていたりする点は、**冬の厳しい寒さと積雪に対応したものとされる。**

平湯の湯に浸かり、厳しい冬を乗り越えるための知恵が詰まった住宅で身体を休めれば、**電気や道路等のインフラが整っていなかった時代に、この地域に住んでいた先人たちの暮らしに思いを馳せることができる。**



旧高桑家・旧豊坂家 旧高桑家は40年以上前に富山県利賀村から移築された合掌造の住宅、旧豊坂家は蔵柱地区から移築した高山市指定文化財で、内部には囲炉裏や農機具などが展示されている。無料で見学・休憩可能で、併設されている日帰り温泉「平湯の湯」や食事処「禄次」等とあわせて利用するのも良い。旧豊坂家住宅は江戸時代に享保尺（303.65mmを現尺として定めたもの）が制定される前の間取り寸法で設計された貴重な建築で、昭和43（1968）年に高山市指定文化財となっている。

4-②：飛騨の食文化に学ぶ、長期保存食

豪雪地帯でかつては陸の孤島となっていたことから、朴葉みそや漬物、すし（大根やニンジンを塩で漬けて米こうじ、塩鱒、塩鮭等と混ぜたもの）、ころいも（小さなジャガイモを醤油や漬物のつけ汁で塩辛くして煮たもの）など、飛騨の食事は長期保存がきくように工夫されてきた。いずれも飛騨に共通する食文化だが、それぞれ各家庭の味があるとされる。

こうした飛騨ならではの食事は、各宿泊施設で提供されているほか、平湯温泉内の飲食店でも楽しむことができる。平湯温泉にはコンビニエンスストアはないものの、徒歩圏内に複数の飲食店があることも魅力の一つである。

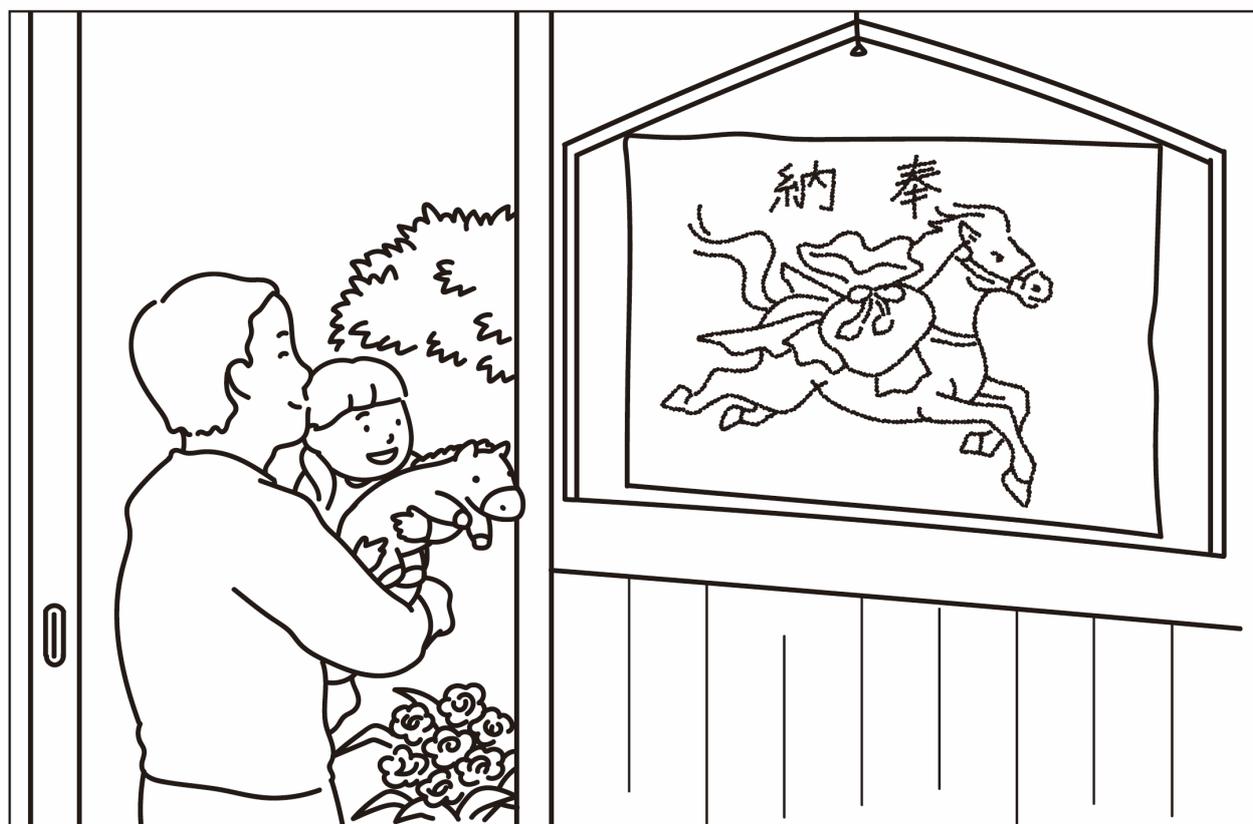


4-③：温泉地ごとに異なる個性豊かな行事や民俗

絵が描かれた板札（絵馬）に個人が祈願を書き、神社や仏閣に奉納する文化は全国的に見られるが、飛騨では絵馬が紙製で、寺社ではなく各家庭に掲げるのが特徴である。

紙絵馬の文化は、奥飛騨温泉郷の各温泉地・集落にも残されており、それぞれ絵馬の絵図や販売方法が異なる。絵馬を販売する絵馬市は、その多くが4月に行われるが、平湯は湯花まつりとあわせて5月に開催される。

その他、平湯音頭や平湯小唄など、奥飛騨温泉郷の中でも平湯のみに伝わる唄や踊りもあり、祭りの際などに披露される。



平湯温泉各所 紙絵馬は、地域に根差した風習であり、各家庭のほか、宿泊施設や平湯バスターミナル等の施設でも入口に掲げられている。ぜひ玄関を見上げて紙絵馬を探してもらいたい。

Kita Alps Traverse Route

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集 -平湯温泉エリア編-

2025年3月

環境省信越自然環境事務所 中部山岳国立公園管理事務所

〒390-1501 長野県松本市安曇 124-7

TEL 0263-94-2024

FAX 0263-94-2651